かごしま有機抹茶
輸出促進基本構想

平成30年３月

鹿　児　島　県

かごしま有機抹茶輸出促進基本構想

＜ 目 次 ＞

頁

第１　基本構想策定の趣旨（はじめに）　・・・・・・・・　１
　１　本県茶業の現状と課題
　(1)　かごしま茶の生産・流通
　(2)　かごしま茶の輸出
　(3)　本県茶業の抱える課題
　２　基本構想策定の目的
　３　基本構想の位置付け
　４　目標年次

第２　かごしま有機抹茶の現状と課題　・・・・・・・・・　６
　１　有機栽培によるてん茶加工用生葉の生産
　２　抹茶の原料となるてん茶の加工・流通
　３　抹茶の加工施設
　４　有機抹茶の流通・輸出

第３　かごしま有機抹茶の目指す姿　・・・・・・・・・・　８
　１　目指すべき将来像
　２　目標値

第４　具体的な取組方向　・・・・・・・・・・・・・・・　９
　１　有機栽培茶の生産拡大
　２　てん茶の安定供給
　３　抹茶加工施設の整備
　４　有機抹茶の輸出拡大

第５　推進体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

◆　「かごしま茶有機抹茶輸出促進基本構想」の概要について

第１　基本構想策定の趣旨（はじめに）

１　本県茶業の現状と課題

(1)　かごしま茶の生産・流通

・　本県は，荒茶生産量で全国第２位の産地で，全国の約３割を占め，その生産割合は拡大傾向にあります。
　また，平坦地での栽培が多く，大型機械の導入による省力化や低コスト生産等により生産者の経営規模拡大が進み，足腰の強い経営体が育成され，面積・生産量を維持しています。

・　本県で加工された荒茶の多くは県外茶商に荒茶のまま出荷されており，県内茶商等が仕上加工した「かごしま茶」での販売は約３割となっています。

・　リーフ茶の消費は減少傾向にある中，平成２８年の緑茶飲料の消費量が過去最高となるなど，簡便な形態での飲用にシフトしています。

・　本県では，かごしま茶販売協力店の設置等による国内の販路拡大や欧米等への輸出拡大へ取り組むほか，紅茶や健康志向等に対応した有機栽培茶・てん茶など，多様なお茶づくりが進みつつあります。

【栽培面積及び荒茶生産量の推移】

区分			H17	H22	H25	H26	H27	H28	H29
面積（ha）	本　県		8,390	8,690	8,660	8,670	8,610	8,520	8,430
		全国ｼｪｱ	17.2%	18.6%	19.1%	19.4%	19.6%	19.8%	19.9%
	静岡県		20,200	19,000	18,300	18,100	17,800	17,400	17,100
		全国ｼｪｱ	41.5%	40.6%	40.3%	40.4%	40.5%	40.4%	40.3%
	全　国		48,700	46,800	45,400	44,800	44,000	43,100	42,400
荒　茶生産量（t）	本　県		23,900	24,600	25,600	24,600	22,700	24,600	26,600
		全国ｼｪｱ	23.9%	28.9%	30.2%	29.5%	28.6%	30.7%	32.4%
	静岡県		44,100	33,400	32,200	33,100	31,800	30,700	30,800
		全国ｼｪｱ	44.1%	39.3%	38.0%	39.6%	40.0%	38.3%	37.6%
	全　国		100,000	85,000	84,800	83,500	79,500	80,200	82,000

資料：農林水産統計

【有機栽培茶園面積の推移】　（単位：ha）

項目	平成23年度	平成25年度	平成27年度	平成29年度	H29/H23
茶栽培面積(①)	8,670	8,660	8,610	8,430	97%
有機栽培面積(②)	221	242	381	532	241%
割合(②/①)	3%	3%	4%	6%	－
うち有機JAS面積(③)	190	193	253	415	218%
割合(③/②)	86%	80%	66%	78%	－

資料：茶栽培面積（農産園芸課まとめ），
有機栽培面積，うち有機JAS面積（食の安全推進課まとめ）

【県産茶の全国における地位と有機栽培茶園の状況】

区分	本県	全国	全国に占める割合	全国における地位	参考:静岡県
荒茶生産量(t)	26,600	82,000	32.4%	2位	30,800
茶栽培面積(ha)	8,430	42,400	19.9%	2位	17,100
うち有機栽培(ha)	532	－	－	－	200
うち有機JAS(ha)	415	－	－	－	－
(※)有機JAS格付数量の県別の割合	44%	100%	－	1位	24%

資料：農林水産統計，県農政部調べ
（注）荒茶生産量・茶栽培面積：H29年産
有機栽培面積・うち有機JAS面積：H29年時点
（注）静岡県有機栽培面積：H28年時点（「静岡県茶業の現状」より）
（※）有機JAS格付数量の県別割合（H26年）：格付数量の約６割の事例調査結果
（農水省「茶をめぐる情勢」より）

【県内におけるてん茶の生産状況】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
当年度整備工場数	1	2	1	6
工場数(累計)	3	5	6	12
生産量(t)	50	50	275	489

（注）生産量：市町村報告

(2)　かごしま茶の輸出

・　本県では，平成27年１月に生産者・茶商・経済連・県などを構成員とする「かごしま茶輸出対策実施本部」が設置され，生産・加工から流通・販売まで一貫した流通システム「かごしま茶輸出サプライチェーン」の構築による輸出相手国の食品安全基準に対応した茶づくりや，在米コンサルタントの設置による商談情報収集，県内茶商の海外商談会へ出展支援などに取り組んでいます。

・　このような取組により，かごしま茶は，米国を中心に，欧州，台湾等に輸出され，平成28年度の輸出金額は２億２千万円で，平成26年（177百万円）に比べ25%増加しているものの，全国の緑茶輸出額116億円に占める割合はまだ低い状況にあります。

・　海外においては，健康志向や和食ブーム等を背景に，緑茶の人気が高まっており，特に有機栽培茶や多様な用途に活用できる抹茶の需要が増加しています。

【かごしま茶輸出実績の推移】

		H26年度	H27年度	H28年度	H28/H26
輸出量（t）	本　県	86	93	133	155%
	全国ｼｪｱ	2.4%	2.2%	3.2%	―
	全　国	3,516	4,127	4,108	120%
輸出額（百万円）	本　県	177	200	221	124.9%
	全国ｼｪｱ	2.3%	2.0%	1.9%	―
	全　国	7,799	10,106	11,551	148%

資料：本県～鹿児島県茶業会議所，農産園芸課調べ（４月～翌３月）
　　全国～財務省通関統計（１月～12月）

【主要国へのかごしま茶輸出実績の推移】

輸出国	H26			H27			H28			H28/H26		
	数量（t）	金額（千円）	単価（円／kg）	数量（t）	金額（千円）	単価（円／kg）	数量（t）	金額（千円）	単価（円／kg）	数量	金額	単価
米国	58.7	82,972	1,413	47.0	102,343	2,179	28.6	64,138	2,242	49%	77%	159%
台湾	2.7	4,500	1,667	18.6	22,528	1,208	75.6	45,732	605	2800%	1016%	36%
ドイツ	17.6	69,114	3,919	16.6	40,639	2,443	19.9	92,155	4,637	113%	133%	118%
その他	6.7	20,499	3,055	10.7	34,547	3,230	8.6	19,214	2,227	129%	94%	73%
合計	85.7	177,085	2,065	92.9	200,058	2,152	132.7	221,239	1,667	155%	125%	81%

資料：鹿児島県茶業会議所，農産園芸課調べ（４月～翌３月）

(3)　本県茶業の抱える課題

・　国内の緑茶需要が減少傾向にある中，各種ＰＲ活動等による「かごしま茶」の銘柄確立や販売協力店の拡大による販売促進，輸出による新たな販路開拓など，需要拡大対策を進める必要があります。

・　特に，輸出による販路開拓については，世界各国に輸出可能な有機栽培茶や輸出相手国の食品安全基準に対応したお茶の生産拡大を進めるとともに，海外に向けた情報発信や販促活動等のプロモーション活動が必要です。

・　輸出にあたっては，全国トップレベルである有機栽培への取組を生かし，海外での健康志向等を背景にした需要に対応するため，有機抹茶を本県から直接輸出できる生産体制・流通体制を整備する必要があります。

２　基本構想策定の目的

・　かごしま茶の輸出を促進するため，海外で需要の高い有機抹茶の生産・流通拡大に向けた今後の基本的な取組方向等を示したものです。

３　基本構想の位置付け

・　「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」を踏まえ，有機抹茶の生産・流通拡大に向けた今後の取組を示すものとします。

・　本構想は，現時点で想定される10年先を見据えた上で，目標や展開方向等を策定しますが，お茶の輸出を取り巻く環境などに大きく変化等が生じた場合は，内容を再検討するものとします。

４　目標年次

・　本構想は，「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」の目標年次との整合性を図る必要があることから，平成37年度を目標年度とします。

第２　かごしま有機抹茶の現状と課題

１　有機栽培によるてん茶加工用生葉の生産

・　本県の有機栽培茶の栽培面積は，532ha（H29）で全国トップクラスで拡大傾向にあるものの，有機栽培は病害虫の発生等により生産が不安定であり，有機栽培に対応した病害虫・施肥対策など生産安定・品質向上に向けた生産技術の高度化が必要です。

・　有機栽培茶の面積拡大にあたっては，農薬の飛散防止等のため茶園の団地化を進め，団地を構成する生産者の指導強化により栽培技術の向上を図るとともに，有機ＪＡＳ認証等の取得を促進する必要があります。

・　有機栽培によるてん茶加工用生葉の生産は，長期間の被覆等が必要となることから，施肥や整枝技術の改善など茶樹の樹勢維持対策が必要であり，生産技術の開発・改善を進めるとともに,生産者の技術向上を図る必要があります。

２　抹茶の原料となるてん茶の加工・流通

・　本県では，抹茶需要の拡大に伴い，てん茶工場の整備が進み，また新設を計画する生産者も存在するなど，てん茶の生産量は増加傾向です。

・　本県で生産されたてん茶の多くは，県外茶商との契約等により，直接出荷されており，県内への出荷は少ない状況です。

・　県外茶商等からは,てん茶の生産拡大が期待されるなど,今後とも抹茶需要は拡大が見込まれることから，てん茶工場の整備を促進し，生産量の拡大を図る必要があります。

・　県内茶商の一部では,抹茶の輸出の意向があることから,てん茶の茶市場上場などてん茶を県内茶商に安定的に供給する体制整備が必要です。

・　本県では，平成26年以降にてん茶の生産を開始した生産者が多いことから，需要に対応した品質のてん茶生産ができるようてん茶加工技術の習得および向上を図る必要があります。

３　抹茶の加工施設

・　本県における抹茶加工・調達の現状は，小型の粉砕機を利用した自社加工や，県外茶商への委託加工などとなっています。

・　最近の動きとしては，県内茶商１社が，平成29年度に抹茶加工施設を整備したほか，大手商社と連携した抹茶加工施設の検討が進められている事例が見られます。他の県内茶商等でも，抹茶加工施設の新設整備の意向が見られるものの，いずれも具体的な整備には至っていない状況です。

・　県内産てん茶の付加価値を高め，海外からの抹茶需要に対応するため，抹茶加工施設整備を進め，本県から抹茶を直接輸出できる体制整備を推進する必要があります。

４　有機抹茶の流通・輸出

・　欧米等では，健康志向等を背景に緑茶の人気が高まっており，中でも有機茶や有機抹茶の需要が拡大傾向にあり，今後もこの傾向は継続すると見込まれます。

・　欧米等では，中国・韓国産抹茶も流通しており，本県産との競合が懸念されます。

・　国内外の抹茶需要の拡大に対応し，静岡県や京都府等での抹茶生産は拡大傾向にあります。

・　県内茶商等の一部で，県内産てん茶を原料とした抹茶の輸出や販路開拓の動きもあります。

・　海外の抹茶需要に対応した品質や安全性の確保など，本県産以外の抹茶との差別化を図る必要があります。

・　本県では「かごしま茶輸出サプライチェーン」を構築しており，輸出相手国の食品安全基準に対応した茶生産に取り組んでいます。今後は，この取組にかごしま有機抹茶を加え，生産から流通に至る工程管理を整備する必要があります。

・　輸出相手国の消費動向や流通状況に応じた効果的なプロモーション活動の展開やかごしま茶の特徴を生かした商品づくり等に取り組む必要があります。

第３　かごしま有機抹茶の目指す姿

１　目指すべき将来像

・　有機栽培茶園の拡大やてん茶工場の増加により，有機てん茶の生産が拡大するとともに，県内茶商等へのてん茶の流通が確立され，かごしま有機抹茶の輸出に向けた生産・流通体制が整備されています。

・　県内における抹茶加工体制の整備が進み，県内茶業関係者が連携した海外でのプロモーション活動が展開され，かごしま有機抹茶の輸出が拡大するなど，世界ブランド化に向けた取組が展開されています。

・　これらの取組により，かごしま有機抹茶の輸出拡大が牽引役となり，かごしま茶全体の輸出も拡大し，生産者の所得向上が図られるとともに，本県茶業の振興に貢献しています。

２　目標値

項　　目	目　　標 （平成37年）
本県産有機抹茶の輸出量	400ﾄﾝ
本県産有機抹茶の輸出額	16億円

第４　具体的な取組方向

【　取組１：有機栽培茶の生産拡大　】
健康志向を背景に海外での需要が高く，世界各国に輸出可能な有機栽培茶の生産拡大を進めます。

・　近隣農地等からの農薬飛散を防止するため，既存の有機栽培茶園を核とし，茶園の団地化を図りながら，有機栽培茶園の拡大を推進します。

・　冷涼な気象条件のもと，害虫の発生が比較的少なく，団地化を進めやすい中間・遅場地域（山間地等）を中心に有機栽培を推進します。

・　有機栽培茶の生産安定・品質向上を図るため，有機栽培適応品種の導入推進や生産技術の確立に取り組むとともに，有機栽培技術の高位平準化を進めます。

・　特に，有機てん茶用生葉の生産については，長期被覆などが必要となることから，高度な生産技術の開発・改善・普及を進めます。

・　有機ＪＡＳ認証の取得を進めるとともに，有機栽培を中心としたモデル経営体の育成など，生産者の所得向上につながる取組を推進します。

【　取組２：てん茶の安定供給　】
需要に対応したてん茶の安定供給体制を構築します。

・　有機栽培茶団地を核としたてん茶工場の整備を支援するなど，有機てん茶の安定的な供給体制の整備を推進します。

・　てん茶の県茶市場への上場や，有機抹茶（てん茶）の需給・取引状況等の情報提供などによる相対取引を推進し，安定した出荷先の確保を図ります。

・　加工技術の研修や茶求評会等の開催等により，てん茶加工技術の向上を図り，県内茶商等が求める品質の有機てん茶生産を支援します。

・　てん茶を組み入れた農業経営のモデル指標を作成し，経営安定に向けた収益性の高い農業経営を推進します。

【　取組３：抹茶加工施設の整備　】
海外からの需要に対応できる抹茶加工施設の整備等を促進します。

・　抹茶の生産や需給動向等にかかる情報収集や，抹茶加工施設整備にかかる意向調査等により，抹茶加工施設の整備を促進します。

・　県内茶商等の意向を踏まえ，国の補助事業等を活用し，抹茶加工施設の整備を進めます。

・　生産者と茶商等が連携した組織を育成して，生産と加工・販売が効率的に運営できるモデル的な抹茶加工施設の整備について検討を進めます。

・　抹茶加工施設の整備にあたっては，ＨＡＣＣＰ等の食品安全規格への対応など安心・安全な生産体制づくりの支援に取り組みます。

・　海外の多様な需要に対応したバリエーション豊かな商品づくりや，効率的な抹茶加工による低コスト生産を進め，競争力のある商品づくりを推進します。

【　取組４：有機抹茶の輸出拡大　】

「かごしま茶輸出サプライチェーン」の取組やプロモーション活動の強化等により，かごしま有機抹茶の輸出拡大を推進します。

・　生葉生産から仕上加工までの生産管理及び茶市場での区分流通に取り組む「かごしま茶輸出サプライチェーン」に新たに有機抹茶を加え，生産・流通体制の整備を進めます。

・　有機抹茶の需要が高い欧米を重点市場に設定するとともに，東南アジアなど新規市場については，従来の煎茶の輸出を進めつつ，有機抹茶需要の動向を注視しながら，市場開拓に取り組みます。

・　関係機関・団体が連携して，品質と安心・安全を前面に出したプロモーション活動を展開するとともに，世界各地で開催される商談会や見本市への出展支援による販路開拓や，食品加工業者等と連携した新たな需要の創出に努めます。

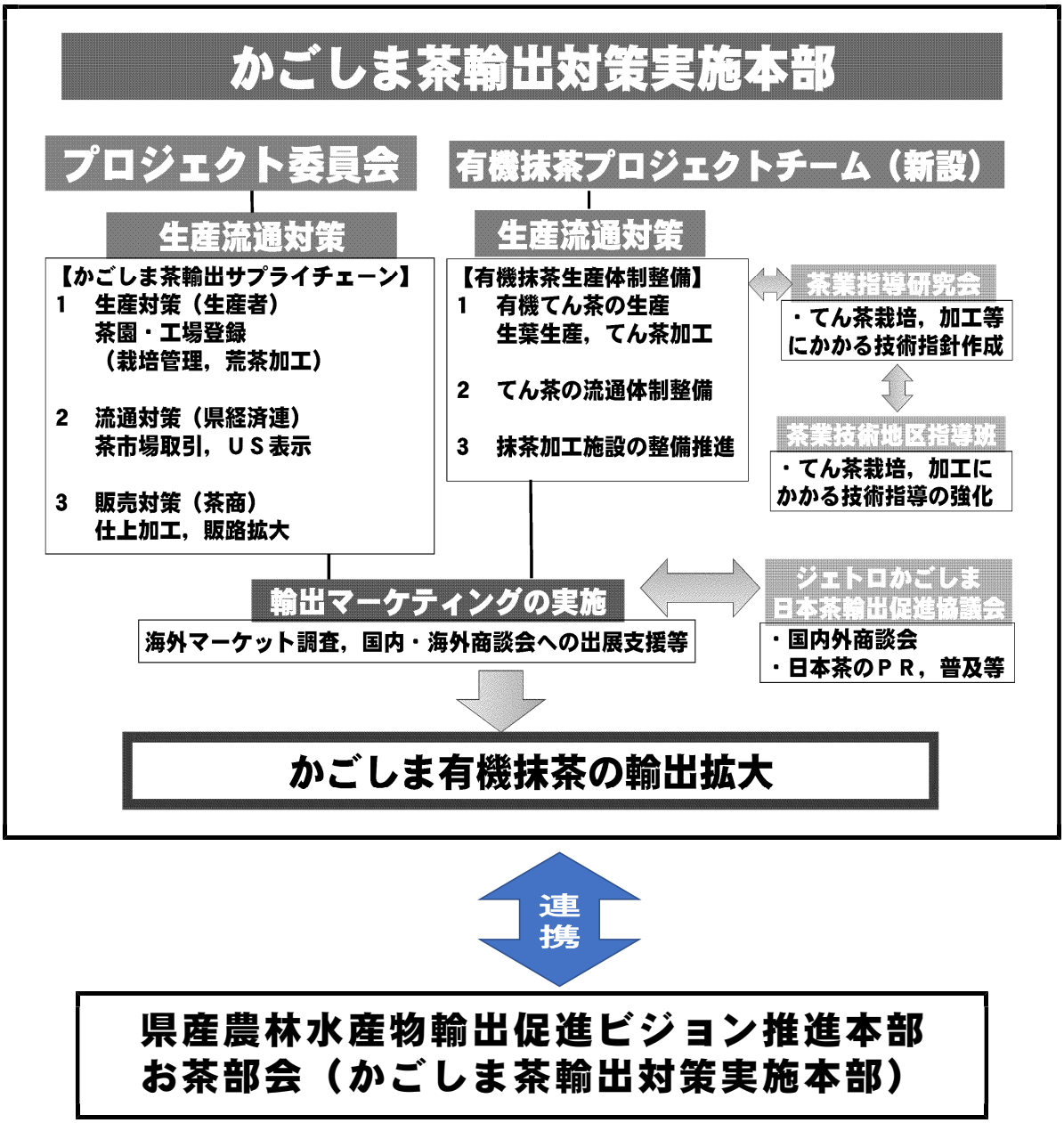
・　欧米等の茶関係者との連携促進などの輸出環境づくりに努め，かごしま有機抹茶の輸出拡大を図ります。

第５　推進体制

・　「かごしま茶輸出対策実施本部」を中心に，かごしま有機抹茶の生産・輸出等を推進します。

・　生産者や関係機関・団体の役割を明確化し，構想に基づく事項の進捗管理や検証等を行い，目標達成に向けた取組を推進します。

○かごしま有機抹茶輸出促進に向けた推進体制



県産農林水産物輸出促進ビジョン推進本部
お茶部会（かごしま茶輸出対策実施本部）

「かごしま有機抹茶輸出促進基本構想」の概要について

趣　旨

○　かごしま茶の輸出を促進するため，海外で需要の高い有機抹茶の生産・流通拡大に向けた今後の基本的な取組方向を示すものとして策定

現状・課題

H28年度
かごしま茶輸出額
2.2億円（煎茶）

1　有機栽培によるてん茶加工用生葉の生産は拡大傾向
　⇒　生産安定・品質向上に向けた生産技術の高度化が必要

2　抹茶原料用てん茶の需要拡大と加工技術の向上
　⇒　てん茶の生産流通体制の整備，加工技術の高度化が必要

3　抹茶加工施設は，１社が整備したものの小規模
　⇒　抹茶加工施設整備を進め，本県から抹茶を直接輸出できる体制の整備が必要

4　健康志向等を背景に，有機抹茶の需要が拡大傾向
　⇒　輸出相手国の消費動向等に応じたプロモーション活動が必要

基本構想の実現に向けた取組

１　有機栽培茶の生産拡大

◇　有機栽培茶園の団地化推進

◇　有機栽培技術の開発・普及

◇　有機JAS認証の取得促進

など

２　てん茶の安定供給

◇　てん茶工場の新設支援

◇　茶市場への上場など安定した出荷先の確保支援

◇　求評会等を通じたてん茶品質の向上

など

３　抹茶加工施設の整備

◇　県内における抹茶加工施設整備促進

◇　生産者と茶商等が連携したモデル施設の整備検討

◇　抹茶加工施設の安心・安全な生産体制づくりへの支援

など

４　有機抹茶の輸出拡大

◇　有機抹茶の生産・流通体制整備

◇　欧米を重点市場とし，その他新規市場の開拓にも注力

◇　品質と安心・安全を前面に出したプロモーション等による販路拡大や需要創出

など

推進体制等

かごしま茶輸出対策実施本部
・茶業関係者が一体となった取組を展開

連携

県産農林水産物輸出促進ビジョン推進本部

目指す姿
平成37年（2025年）

◆　かごしま有機抹茶の輸出に向けた生産・流通体制が整備

◆　海外でのプロモーション活動が展開され，かごしま有機抹茶の輸出が拡大

「かごしま有機抹茶輸出促進基本構想」
輸出目標額
16億円

「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」
輸出目標額
20億円を実現
・煎茶：　４億円
・抹茶：１６億円